

活動分野	緑のおもしろ講座		
タイトル	海と森の関わりを知る		
実施日時	平成 29 年 3 月 25 日（日）10 時～15 時 30 分		
実施場所	千葉市花見川区 幕張駅～花見川沿い		
受講者	19 名	F I C 会員他スタッフ	9 名

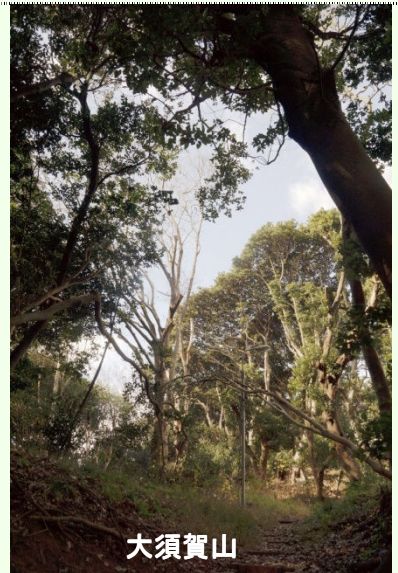
活動の内容

千葉市は、市の主要部が縄文時代には海の中、且つ貝塚の分布密度が世界一と云う日本でも特に海との関わりが深い地域です。今回はその中でも特に海と森との関わりが観察できる花見川下流域を、50 年前の海岸線（現在の県道 57 号線）から上流へと辿って森に残された海の影響を探ろうという企画です。JR 幕張駅集合、県北部の東京湾岸に唯一残った海岸林（大須賀山）から花見川沿いに 5 つの森（大須賀山、三代王神社、武石庚申塔、長作諏訪神社、長作水神宮）を巡って、海と森の関わり、過去及び現在進行中の遷移を観察しました。

海岸から遠ざかるにつれてヤブニッケイやタブノキが多い森から次第にスダジイやシロダモ等が多くなる様や、最近の積雪による樹木の損傷等が原因で次第に内陸型の森に変わっていくであろう森（大須賀山）、数百年を生きてきたと思われるタブノキの枯死の進行（水神宮）等の生々しい遷移の様も観察できました。

参加された皆さんは、海岸からの距離が植生に与えた影響、森が覚えている（だろう）縄文時代から続く海の記憶、さらに 50 年前の東京湾埋め立てが森に与えた影響等を幾分なりとも理解されたことと思います。

後半は明るく開けた花見川沿いに、縄文時代の海岸線と当時の地形等を偲びつつ、春の野草も観察しながら歩き、花島公園で解散しました。



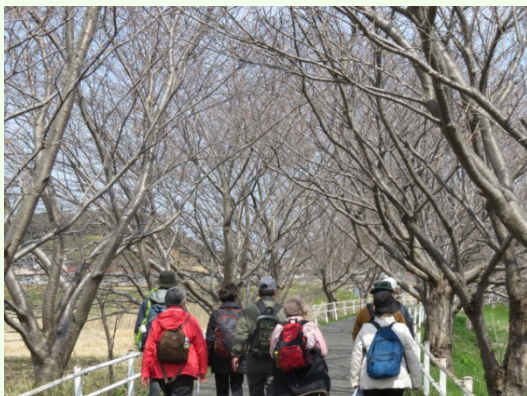
大須賀山



タブノキの枯死
(水神宮の森)



上：海風で傾いだヤブニッケイと雪害による倒木の残骸（大須賀山）



花見川の桜堤を行く



三代王神社